



八小だより

武蔵村山市立第八小学校 令和3年12月1日

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html>

教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- やりとげる子
- 礼を重んずる子

行動目標

わけをそえて話すことができる子
教室で話しているのは一人



コロナ禍で実施した学習発表会(学芸会)

校長 牧 一彦

11月26日(金)・27日(土)に実施した学習発表会(学芸会)には、御多用の中、多くの保護者の皆様にお越しくださり、心より感謝申し上げます。併せまして、当日は早朝より本校 PTA 会長永瀬健一様をはじめ、多くの PTA 役員の皆様には多大なる御協力をいただきました。ありがとうございます。子供たちは、日頃の練習の成果を存分に発揮し、一生懸命の表現力を発揮してくれました。

今年の学習発表会(学芸会)の実施に向けては、多くの迷いがありました。コロナ禍の制限の中でどうすれば感染拡大リスクを抑えながら、子ども一人一人をより成長させることができるか、職員とも相談しつつ案を重ねました。そして、その「学習効果」「指導時間」「感染リスク」を天秤にかけ、何とか絞り出したのがこの「マスク着用・AB チーム分け」の方法です。

「え？学年で劇を2本創るってことですか？」

指導する担任たちにとっては、たまったものではありません。1つの劇を創ることで相当の苦労と努力が必要です。それが2倍になるわけですから…。主役級の子どもへのきめ細かな指導も2人分、練習やリハーサルにも2倍の時間がかかるのです。しかし、悪いことばかりではありません。一人のはずの主役が2人に、場面で分ければさらに4人、6人と増やせます。たとえ端役であっても、一人あたりの台詞の数も演技時間も2倍になる。つまり子ども達の活躍の場も2倍になるということです。さらにAチームとBチームが互いに演技を見合うことにより、互いに高め合ったり、不十分さを補い合ったりでき、みんなの劇を、よりよいものにしていくとする意識を高めることができるのです。そんな厳しい状況の中でも、子どもたちの成長を信じて一生懸命に指導に取り組んでくれた教職員を誇りに感じています。

本校ではこの発表会に向けて、主に次のことを目標に、練習や本番の指導に当たってまいりました。

まず第一は、一人一人が「表現力を磨くこと」です。劇の登場人物になりきって、大きな声でセリフを言ったり、セリフが無くても何をしているかがわかる演技を工夫したりすることです。普段の授業では発表や発言が苦手な子どもも、この発表会の練習や本番をとおして、堂々と発表したり表現したりできるようになればと考えています。第二は、「劇のテーマについて深く考えること」です。例えば友達を信頼し友情を深めること、人と協力して、挫けることなく目標を達成することなど、普段の徳育科の授業で学んでいる様々な道徳的な価値について深く考え、よりよい生き方について考えることです。そして第三は、実はこの目標が最も大きなものなのですが、学級や学年の「チームワークの力を磨くこと」です。心をつなげて協力し合うことの大切さ、みんなで頑張ったことによって得られる達成感を味わわせることにより、チームで仕事をするものの大切さや尊さを感じ取らせたいと考えています。

このように、学芸会という学校行事は、集団による学習でなければ得ることのできない貴重な教育的価値を数多く含んでいます。教科の授業時数確保が叫ばれる昨今でもなお、実施を止めない理由がそこにあります。そしてこの表現力、道徳性、チームワーク力が、将来子どもたちの生きてはたらく力となるものと信じています。

地域・保護者の皆様から見た学習発表会(学芸会)はいかがでしたでしょうか。御意見や御感想を寄せていただけるとありがたいです。

子供たちの笑顔のために、教職員一同の叡智を集めて、地域に愛されるよりよい学校づくりに努めてまいります。地域・保護者の皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

写真

